

2020年度

川崎市視覚障害者情報文化センター
指定管理事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

目次

ページ番号

1. 総括	-----	1
2. 事業の成果	-----	2
(1) 点字図書館事業	-----	2
① 図書の貸出	-----	2
② 点字図書・音訳図書・音声ガイドの製作	-----	4
(2) 相談・訓練事業の取り組み	-----	4
① 相談・訓練実績	-----	4
② 訓練生同士の懇親会の開催（ア、イ）	-----	6
③ 訓練生屋外交流会の開催	-----	7
(3) 視覚障害者用具の展示と斡旋	-----	7
(4) ボランティアの養成と連携	-----	7
① 音訳関係	-----	7
② 点訳関係	-----	8
(5) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及	-----	9
① 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携（ア～キ）	-----	9
② 啓発・普及	-----	10
(6) 広報活動・イベントの開催	-----	11
① 広報活動（ア～ウ）	-----	11
② イベントの開催（ア～オ）	-----	13
(7) 防災・減災	-----	17
① 新型コロナウイルス感染予防対策について	-----	17
② 緊急事態宣言が発令された際の勤務体制について	-----	17
③ 緊急連絡網の整備	-----	17
3. 利用状況	-----	18
(1) 閲覧・貸出	-----	18
(2) 資料製作	-----	19
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成	-----	20
(4) 訓練・相談事業の取り組み	-----	20
(5) 啓発・普及	-----	21

1 総括

社会福祉法人日本点字図書館は、川崎市視覚障害者情報文化センター条例等に基づき、2020年4月1日から2021年3月31日まで、指定管理者として川崎市視覚障害者情報文化センター（以下センター）の管理運営を行いました。当センターの事業方針は、「視覚障害者市民にいつも頼られるセンター」を目指しています。図書の貸出、自立支援訓練、用具の斡旋に加え、音声ガイド付き映画の体験上映、ヨガ、音楽コンサートなどのイベントも積極的に開催し、日常生活のQOLを高めると共に、文化に触れる機会を提供し、視覚障害者が一市民として心豊かな毎日を過ごせるよう支援を行なっています。今年度におきましては新型コロナ感染拡大対策と、そのような状況の中で事業をどのように進めていくのか、模索しながら事業を行った一年でした。

年間を通して、川崎市からの通知、ガイドラインに準拠し、マスクの着用、手指消毒、部屋の換気、除菌などを行いました。2020年4月7日から5月25日まで、及び2021年1月8日から3月21日までの緊急事態宣言が発令された期間は、川崎市の「緊急事態宣言下における本市行政運営方針」に従い、休館することなく業務を継続しました。ただ、利用者に高齢の方が多いため感染予防に配慮し、対面で行うパソコン訓練、調理訓練などの訓練・相談は、緊急を要するもの以外は控えました。また、来所された方で、白杖の修理、必需品の購入などの希望には、原則対応するようにしました。

施設内は、受付、相談室、閲覧室など、人と面談する部屋には透明カーテンを設置し、除菌は毎朝、職員が行いました。また、空気清浄機を購入し、人が集まる際には窓を開けて換気するとともに、空気が流れるように配慮しました。また、神奈川県感染防止対策取組書・LINE コロナお知らせシステムに登録し、感染防止対策取組書を受付、用具販売コーナー入口に提示しました。

緊急事態宣言期間中は、職員を2つのグループに分け、センター勤務と在宅勤務を交互に行いました。これにより、もし、職員が新型コロナに感染して、そのグループが出勤できなくなったとしても、他のグループが出勤し、事業を継続できるようにしました。

また、コロナ禍で事業を進める上で、とても有益だったのがZoomの利用です。交替勤務の際はセンター勤務と在宅勤務の職員がZoomで朝礼を行ったり、音訳ボランティア養成講座、点訳者の研修会、ヨガ教室での利用に加えて、点字図書の読み合わせ校正作業、パソコン訓練などでも利用しました。

図書の貸出は、コロナ禍で自宅に居る時間が増え、貸出数が前年より増加いたしました。また、図書の製作もボランティアの方々が増え、自宅にいる時間が増え、製作目標数を上回ることができました。

訓練・相談については、長期的に継続して行う「訓練」よりも、個人個人のニーズに応じて短期的に行う「相談」を利用する方が増えてきています。スマートフォンのアプリの操作に関する相談、日常生活相談などが増えていきます。

イベントについては、音声解説付き DVD 映画体験上映会、ヨガ教室、れきおんクラブは、感染者の比較的少ない時期に開催しました。また、春・冬のコンサート、センターまつりは開催できませんでしたが、センターまつりの中の特別企画「講談会」は開催することができました。

一般市民への啓発については、センターに人を集めて行うことはできませんでしたが、そのような中で小学校の体験授業への講師派遣の依頼がありましたので、職員を派遣しました。防災・減災については、年間を通して新型コロナ感染予防対策を行った一年でした。

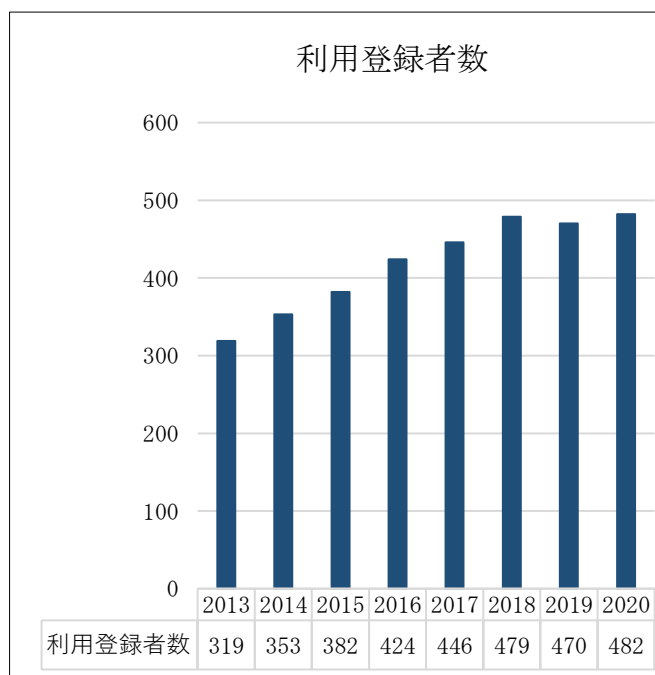
2 事業の成果

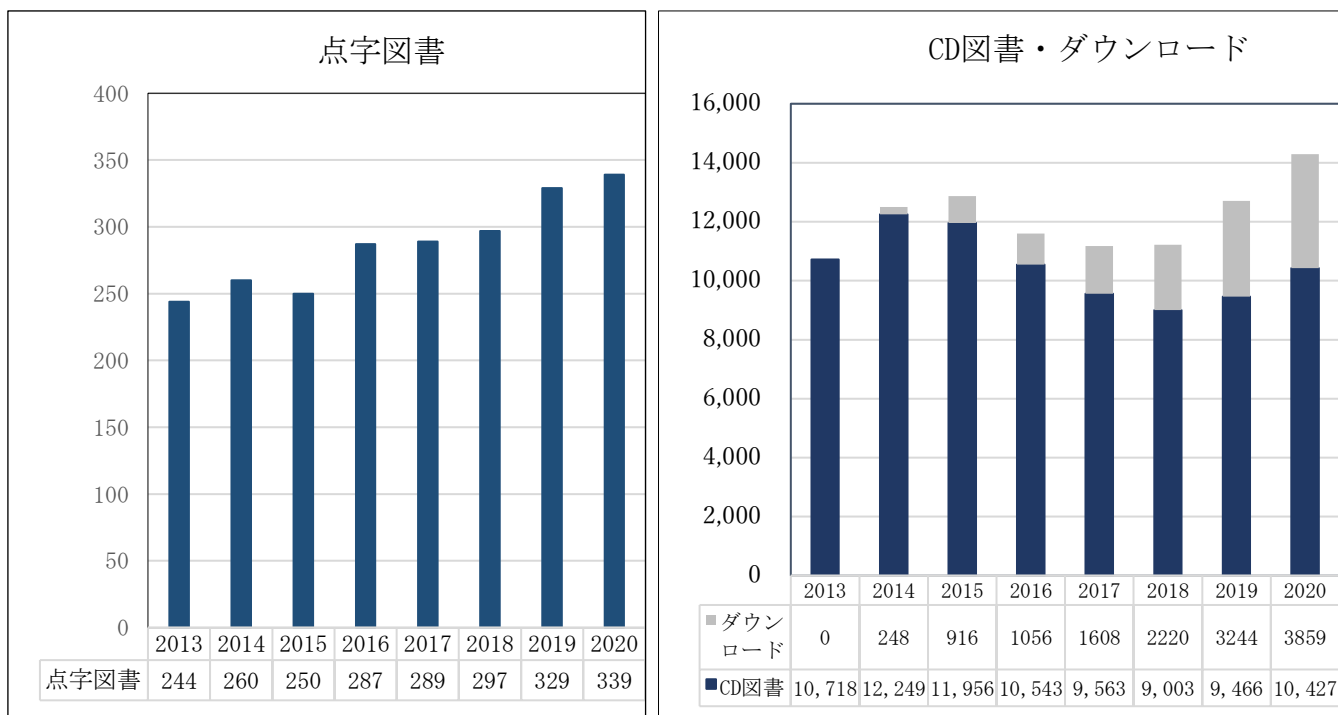
(1) 点字図書館事業（図書の貸出/製作/ボランティアの養成）

利用登録者、点字図書、CD図書・ダウンロードの状況をグラフに示します。

① 図書の貸出

利用登録者数は2019年度より12名増加しました。貸出数は点字図書が339タイトル（2019年度329タイトル）、音訳図書はCD図書が10,427タイトル（2019年度9,466タイトル）といずれも昨年を上回り、特に音訳図書が2019年度に比べ10%ほど増加しています。さらにメモリーメディア（SDカード・CFカード・CD）を使って提供する方式(注1)は、音訳図書が3,859タイトル（2019年度3,244タイトル）と前年度比の2割増えています。コロナ禍で自宅に居る時間が増えたことにより、読書の時間が増えたため読書ニーズが高まったためと思われます。また、センターもそのような読書ニーズに応えるため、利用タイトル数を制限することなく平常通り貸出ししていましたので、貸出担当は連日多忙な状況でした。特に緊急事態宣言中は、職員を2つに分け、在宅とセンター勤務を交互に行っていましたので、貸出以外の職員も応援して対応しました。また、メモリーメディアの利用は、一度に10タイトルを一回のカードのやりとりで聴くことができる便利さに加え、夏期の休館や年末の休館の時期に合わせて「ダウンロードサービスおすすめセット（3種のジャンル/各15タイトル）」を





企画したことにより利用が増加しました。センターとしてもメモリーメディアの利用を推奨しており、広報を続けた成果も出てきていると推測しています。一方CD雑誌の貸出は3,837枚（2019年度4,350枚）と約1割減少しています。これは、音訳雑誌を製作しているボランティア団体が、コロナ禍で製作が滞ってしまったためと考えられます。

また、当センターの製作図書を利用者自らがインターネット上の電子図書館「サピエ図書館」にアクセスして、直接ダウンロードする件数も伸びています。点字図書は1,496タイトル（2019年度1,394タイトル）、延べダウンロード数5,290件（2019年度4,981件）。音訳図書が1,214タイトル（2019年度1,124タイトル）延べダウンロード数76,400件（2019年度60,197件）となっています。これは、サピエ図書館にパソコンを使用しないで直接アクセスできる機器（プレクストークPTR3）、iPhone・iPad用のサピエ図書館アプリ（ボイス オブ デイジー）の利用、点字電子機器がサピエ図書館に対応したり、利用できる機器が増えてきたことが要因と思われます。今後も図書データを直接利用するユーザーが増えてくることが予想されますので、その支援も行っていく予定です。

注1) 当センターでは貸出方法のひとつとして、ダウンロードサービスを行っています。これは、パソコンの使用が困難な利用者のために、利用者に代わってサピエ図書館から希望の図書をメモリーメディア（SDカード・CFカード・CD）にダウンロードするサービスです。これによって、サピエ図書館でダウンロード可能なすべての資料をご利用いただけます。1回のリクエストで10タイトルまとめて提供することが

でき、利用者個人のメモリーメディアを使用するので貸出期間の制限もなく、人気の図書予約待ちもありません。

② 点字図書・音訳図書・音声ガイドの製作

コロナ禍の中で、点字図書製作でまず問題になったのは、校正作業です。視覚障害者と晴眼者がペアになって一つの部屋に入り、点訳された図書を視覚障害者が読み上げ、晴眼者が原本とチェックするという作業です。コロナ禍でこのような作業を行うことはできません。そこで、Zoom ソフトを利用して自宅を相互につなぎ、遠隔で行うことができないか検討を行ったところ、操作に慣れてもらえば作業が可能なのがわかり、早速導入することにしました。センターが Zoom のホストになり、自宅にいる校正者を招待し相互に結び、読み合わせ校正を行います。当初は接続、操作方法に戸惑われる方もいましたが、徐々に慣れ作業が順調に進むようになってきました。そして Zoom による校正にほぼ全面的に切り替えることができ昨年（47 タイトル）を上回る 49 タイトルを製作することができました。

音訳図書は 101 タイトル（昨年 89 タイトル）を製作し、目標 100 タイトルを達成できました。音訳者もコロナ禍で外出を控えるようになり、自宅にいる時間を音訳作業に充ててくれた方が多かったためです。また、音訳者にメーリングリストで、利用者が図書を読めることにとても感謝していることや、コロナ禍で図書の貸出数が昨年を上回る実績になっていることをお伝えしたことも励みになったようです。

プライベート製作は 17 タイトル製作しました。音訳に比べると早く製作が可能なテキストデージー、プレーンテキストの希望が増えてきています。（2019 年度 4 タイトル → 2020 度 7 タイトル）

DVD 映画の音声ガイド製作は、センターで養成したボランティアにより 8 タイトル（2019 年度 10 タイトル）製作することができました。委託製作の 17 タイトルとあわせて、目標 20 タイトルを上回る 25 タイトルを製作しました。なお、これまで担当していた職員が 8 月に退職し、新規採用職員がそれを引き継ぎました。自ら音声ガイドの製作を体験したり、ほぼすべてのモニター会に出席するなど、短期間で集中的に経験を積み、製作に影響を与えることなく業務を引き継ぐことができました。

（2）相談・訓練事業の取り組み

① 相談・訓練実績

4 月 7 日から 5 月 25 日まで、1 回目の緊急事態宣言が発令されました。歩行訓練、パソコン訓練、日常生活訓練など、すべての訓練を中止し、緊急のもののみに対応いたしました。6 月からは、感染予防対策を取った上で、利用者の希望に応じて徐々に再開しました。2 回目（2 月 8 日～3 月 27 日）の緊急事態宣言下は、訓練担当が利用

者の要望を聞いた上で、緊急性のあるもの、ニーズの高いものについては感染予防対策をとった上で対応しました。緊急性、ニーズの高さの判断については、利用者の希望をできる限り尊重しました。

訓練は利用者が外出を控え、人と会う事を控えている方が多かったため実績数としては全体的に減少しています。昨年に比べ全体で 147 件（403 件→256 件）減少し、特に、歩行訓練は 126 件（214 件→88 件）減少しています。一方、パソコン訓練は昨年とほぼ同様の件数となっています。これは全盲の訓練士が、スマートフォン使用可能者に Zoom を指導し、Zoom を通して操作を説明し、相手の操作結果を音声で確認し指導するという方法をとったためです。この方法により新型コロナの影響を受けずに訓練を行うことができました。また、日常生活訓練が昨年より増えているのは、調理指導を希望された数名に、緊急事態宣言下を避けて継続的に調理訓練を実施したためです。

一方、相談実績は昨年に比べ 64 件（347 件→411 件）増えています。ICT 相談（スマートフォン等）が昨年 33 件に対して 70 件に増えています。スマートフォンの特定アプリに関する操作説明ニーズが増えたことと、遠隔でサポートしたためです。また、Zoom アプリの操作指導を希望される方も増え、それによりヨガ教室や利用者交流会等に参加できるようになりました。また用具関係の相談で、録音図書再生機、音声時計、拡大読書器などの操作方法、各種機器の故障相談にもご自宅を訪問し行ないました。

そのほか、生活の困りごとを伺い、改善できる方法を一緒に考えたり、高齢福祉サービスを利用するための情報提供を行ったり、市内の地域包括支援センターや相談支援センターからの依頼でカンファレンスに同席するなどにも対応いたしました。今後も川崎市内の障害・高齢福祉関係機関と連携し、センターが早い段階で関わるができるよう、関係を強化していきたいと思っております。

<訓練>

	訓練	
	名	回
歩行	8	88
パソコン	10	73
ICT	2	2
点字	0	0
日常生活	7	66
その他	4	27
合計	31	256

<相談>

	相談	
	名	回
歩行	42	106
パソコン	18	60
ICT	13	70
点字	1	1
日常生活	43	166
その他	7	8
合計	124	411

② 訓練生同士の懇親会の開催

(ア) Zoomを使用した利用者交流会(アクロス)の開催

「アクロス」とは川崎市に在住・在学・在勤している視覚障害者の比較的若い世代の自主的なサークルで、センターが協力して交流会を開催しています。20代から60代前半までの方が、毎回テーマを決めて情報交換を行います。

第1回は「エポックなかはら」で9月12日に開催。7名の方が集まり「単独歩行」について自由に懇談し、初めて行くお店の見つけ方や道に迷ったときにはどうすればよいか等、日ごろ抱えている疑問を出し合い、情報交換を行いました。

第2回(11月14日)、第3回(2021年2月6日)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoomを利用しオンラインで開催。「外出時に白杖が折れたときの対処法」、「便利な調理グッズ」、「私の好きなこと」をテーマにしました(参加者各10名)。各自の経験談を語ったり、好きなことを伝え合ったりすることで、参加者同士の距離が縮まり、とても好評でした。このようにひとつのテーマに沿って深く語り合う機会は、あまり無かったようですので、2021年度も年4回程度、定期的で開催する予定です。

(イ) YouTubeを活用したサロン(11月19日)

ICT訓練担当が企画し、YouTubeでどんなことができるか、検索方法やコツを伝え、実際におすすめの番組などを聴いて楽しんでいただきました。このようなオンライン会議は、利用者交流の場だけでなく、Zoom自体にチャレンジするきっかけとなった方もいます。(参加者4名)

③ 訓練生屋外交流会の開催

例年、訓練生同士の交流や親睦を深めることを目的に、年に1度川崎市の福祉バスをチャーターして屋外交流会を実施しています。センターの前身である川崎市盲人図書館時代から続いている恒例のお楽しみ行事のひとつですが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、屋外交流会は実施できませんでした。

(3) 視覚障害者用具の展示と斡旋

2020年度は1,087点(2019年度1,256点)の斡旋を行いました。今年度はコロナ禍の影響で来所者が減りましたので、斡旋数も約10%減少しています。こちらに初めて来る方に、センターの事をどこから知ったのかを尋ねてみると、「通院している医師からの紹介」という方が増えてきています。少しずつ、センターのことが広まっているように思われます。

拡大読書器をご覧になるために来所する方が増えてきていることもあり、最新型の展示品を4台加えました。また、当センターには機種は限られていますが、貸出機(注2)を用意しています。拡大読書器を見に来た来所者の中に「これなら文書が読める。すぐにほしい。」という方がいらっしゃいました。新聞を読むのが好きな方で「見えないため一日何もやることが無い」ということでした。日常生活用具として申請すると商品が届くのに約1ヵ月かかりますが、たまたま貸出機と同一機種を希望していましたので、当日その方のお宅を訪問して貸出し用の読書器を設置したところ、大変喜んでいただきました。1ヵ月ほど後に、日常生活用具で支給を受けることができたので、本体設置と合わせて、貸出機を回収いたしました。

用具の斡旋・販売事業は、当事者のQOL向上につながる大切な事業で、新型コロナウイルス感染拡大の中でも、斡旋数は大きな減少もなく、ニーズの大きな事業であることがわかります。今後、益々来所者が増えてくるように思われますので、視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの生活訓練スタッフと共に、課題解決のツールとして利用していただけるよう対応してまいります。

注2) 当事者の方が使用しなくなった拡大読書器を譲り受け、貸出機として利用しています。

(4) ボランティアの養成と連携

① 音訳関係

センターでは点訳者と音訳者の養成講座を隔年で開催しています。2020年度は音訳者の養成講座を9月より開講する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期しました。年末には感染者数が落ち着いてくると想定し、12月5日説明会、2021年1月～6

月まで全 16 回の講座スケジュールを立て、音訳養成講座の広報をプレスリリースいたしました。幸い、神奈川新聞他、地域の情報誌に掲載されたこともあり、12 月 5 日の説明会には 40 名近い人に来ていただきました。このような養成講座への参加者が全国的に減少し



[本講座の様子]

ている中、これだけの人に興味を持っていただけたことは、予想外のことでした。その中から 30 名の方が課題を読み上げる審査に応募され、選考の結果 10 名を選出しました。そして、いよいよ 1 月から半年間の講座開始というときに、緊急事態宣言が 1 月 8 日発令されました。そこで急遽カリキュラムを構成しなおし、本講座が始まる前の予備講座を企画し、Zoom を使って 1 月～2 月にかけて 5 回開催しました。3 月に入り感染が落ち着いてきましたので、11 日からは受講生に集まってもらい、センターで本講座を開始しました。当初の予定から 2 回計画を立て直し、さらに、年度をまたぐ異例の養成講座になりました。会場は呼気に配慮し、一人一人を囲うようにパーティションを設置し、窓をあけ、換気に注意して行いました。読みの基本練習からはじまり、記号、符号の入った文章、イラスト、写真、グラフなどの読み方などの 15 回のカリキュラムで、3 月中に 3 回実施し、引き続き次年度 6 月まで開催する予定です。

また、音訳校正者会議は、計画していた 4 回のうち 2 回のみ実施、音訳関係者連絡会は 2 回のうち 1 回のみ Zoom で開催いたしました。

② 点訳関係

点訳技術のスキルアップ、センターからの情報提供を目的に、点訳関係者連絡会を 11 月 18 日に開催しました。当日は会場参加及び、Zoom を使ったオンライン参加の両方ができるハイブリッドな方法で、センターとしては初めての試みでした。来場者 15 名、オンライン 17 名でほぼ半々に分けることはでき、会場内も各自の距離を十分に空けることができました。また、スキルアップの講師には九州在住の方をお願いしましたので、本来ならセンターまで来ていただくものを、遠隔から講義を受けることができました。当日は会場参加者とオンライン参加者が、相互に画面をみながら双方向で会話できるようにセッティングしましたので、お互いに、ほぼ違和感なく質疑応答を行うことができ、みなさんに満足いただけたようです。



[スクリーンに映ったオンライン参加者の様子]



[会場参加者の様子]

その他、点訳校正者会議（9/30）を開催。オンライン参加 12 名、来場参加 2 名、合計 14 名の参加がありました。また、点訳校正者養成講座を全 5 回（12/9, 16, 1/20, 27, 2/17）企画し、そのうち 2 回（12/9, 16）実施し、1/20 以降の 3 回は感染予防のため中止しました。

センターを活動拠点としているボランティア団体、水車の会、デイジー川崎、川崎パソコンユーザー会の活動日（毎週火曜日）に、当センターの多目的室、および録音室を貸出、活動していただきました。ただし、新型コロナ感染拡大のため、緊急事態宣言期間中は中止、それ以外も 17 時までに終えていただきました。

（5）地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及

今年度、外部向けのイベントはほとんど行われず、見学に訪れる団体もありませんでした。そのような中で総合新川橋病院や、生活訓練関係の団体との情報交換を行ったり、小学校からの講演依頼に職員を派遣しました。

① 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携

（ア）総合新川橋病院医療スタッフとのカンファレンス・情報交換

総合新川橋病院の眼科医師、視能訓練士、看護師と当センター職員 2 名との定期的なミーティングを 2020 年 6 月から 2021 年 3 月まで、毎月 1 回、全 10 回実施しました。情報交換会を 7 回（Zoom によるオンライン）、患者様とのカンファレンスが 3 回です。情報交換では相互に業務を理解する機会をもち、当センターからは、事業内容の概要と実施できる支援について、病院側からは視機能の検査方法、医療ソーシャルワーカーと外来患者との関わりなどを説明し、関心のある点を相互に理解することができました。また、カンファレンスでは、実際の患者様の話を医療スタッフと共に伺い、センターでできる支援を説明し、訪問または来所していただくようにしました。

(イ) 視覚障害者の日常生活訓練に関する連絡会（笹の会）との情報交換

コロナ禍における各施設の訓練状況のほか、調理指導、編み物・手芸、単身赴任を始める方への環境調整等、訓練・相談に関する多方面の情報交換を6回実施しました。（Zoomによるオンライン）

(ウ) 神奈川県立川崎図書館の職員研修「視覚障害について」（約40名）

2021年3月11日「職員に視覚障害者がいるため、視覚障害について概要を学びたい」という依頼があり講演を行いました。センターの事業の紹介、視覚障害とはどのような障害か、見え方、生活に便利な用具の紹介などを説明した後に、シミュレーションゴーグルを使用し視覚障害者の見え方を体験した後、どのような場面で困難を感じるか体験してもらいました。

(エ) 同行援護事業所 otomo 代表鈴木氏との情報交換（オンライン）

6月30日、同行援護事業所との相互理解、相互連携のために会議を行いました。同行援護利用における課題を知ったり、歩行訓練の実情を伝える等の情報交換ができ、有意義な会議となりました。

(オ) 神奈川県生活技術研究協議会事例検討会（オンライン）

視覚障害者に対する支援・訓練を行っている学校・施設の集まりです。歩行訓練部会、コミュニケーション部会、日常生活訓練部会に所属し、事例検討会に合計4回参加しました。日本盲導犬協会による「zoom接続・操作サポート」、七沢自立支援ホームによる「リモート訓練」事例の発表、各施設のオンライン利用状況（訓練、イベント等）について、情報交換を行いました。

(カ) 歩行訓練士有志の集まりによる事例検討会（オンライン）

10月24日、緊急事態宣言下の訓練状況、ロービジョン外来と入院病棟との連携、ホーム転落事故事例等について情報共有を行いました。

(キ) 川崎市社会福祉協議会

川崎市障害者福祉施設協議会の施設長会に参加しました。

② 啓発・普及

市内の小学校の福祉の授業に、当センターの視覚障害者職員を派遣し、点字、日常生活について、盲導犬歩行のデモンストレーションなどを行いました。なお、例年実施している隣接するこども文化センター向けのイベントで、ゲーム感覚で視覚障害を理解する

「夏休みこどもクエスト！」は新型コロナ感染予防のため中止いたしました。

- 2020年10月7日 苧宿小学校（約120名）
- 2020年11月10日 下川原小学校（約50名）
- 2020年12月9日 木月小学校（約50名）
- 2020年12月17日 小田小学校（約100名）
- 2021年3月10日 宮前小学校（約120名）

（6）広報活動・イベントの開催

① 広報活動

（ア）訓練事業説明会

目が見えにくくなって様々な不便を感じている方々が早期に当センターに繋がってもらえるように、毎年1回、主に行政の障害者担当や高齢者・障害者施設の方々に対して、当センターの訓練事業説明会を行っています。2020年度は、新型コロナ感染拡大防止のため、中止いたしました。

（イ）神田京子講談会

川崎アイ eye センターまつりは、当事者はもちろん、一般の健常者にも当センターを知ってもらうための施設公開イベントです。不特定多数の方が例年300名ほど来場しますので、今年度は中止しました。ただ、当日予定していた特別企画「神田京子講談会」は、利用者からの要望も多かったため感染予防に注意して実施いたしました。12月12日ふれあいプラザかわさき2階ホールで、定員の半数（70席）で全席指定席としました。席間を約1メートル離し、ホールの窓を開け、空気清浄機5台、送風機4台を配置しました。受付では、手指消毒、体温測定を実施。配布するプログラムは席の上に置き、受付後、すぐに着席してもらうようにしました。また、合間のトイレ休憩は、列ごとに指定して密にならないように配慮しました。コロナ禍の中でなかなかイベントに参加できなかった視覚障害者の方が多かったようで、皆様にとっても喜んでいただきました。（参加者65人）



[神田京子講談会]

(ウ) メディアによる広報

利用者・ボランティア・支援者の方々へ、以下のメディアにより広報を行いました。

- 新刊図書情報誌「ぶっくがいど」（偶数月）

2ヵ月に一度発行する情報誌です。新刊の点字図書・音訳図書・シネマ・デイジーのほか、DVD 映画体験上映会、コンサート、読書会などのイベント情報、新商品情報などを掲載しています。点字版、CD 版、墨字版の3媒体があります。

このコロナ禍でイベントの開催ができなかったため、室内で過ごす時間が多くなった利用者のために、CD 版のみ 6 月号～2021 年 2 月号まで、特別付録として次の3点の音源を加えて提供いたしました。

<特別付録の内容>

- ▶ おすすめシネマ・デイジー（映画好き職員によるおすすめ映画の紹介：約 20 分）
- ▶ お部屋の中でヨガ・エクササイズ（センターでヨガ教室を担当しているヨガインストラクターによる音声によるヨガレッスン：約 30 分×2 コマ＝60 分）

- ▶ 古今亭菊太楼師匠の落語二席（昨年センターまつりに出演していただいた古今亭菊太楼師匠にお願いし、落語の音源を毎号2話提供していただきました。：約20分×2話=40分）

3月末発行数 点字85部、音声デージーCD版210枚、墨字302部

- 「川崎アイ eye センターだより」（奇数月）

3月末発行数 点字52部、墨字268部

- メールマガジン「アイ eye」（2回/月）

3月末登録者数 264人

- ホームページ <http://www.kawasaki-icc.jp/>（毎月・随時更新）

② イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害者市民もこれらの文化に触れることができるように、例年、多数のイベントを開催しています。

2020年度は、音声解説付きDVD映画体験上映会（毎月）、歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ：隔月）、ヨガ教室（10回）、読書会（年2回）、春のコンサート、冬のコンサートを予定していましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、限られた時期のみの開催となりました。イベントはすべて予約制にして中止になった際にはすぐに連絡をとれるようにしました。また、会場は、席の間隔をあげ、出入り口や窓を開け、換気に十分注意し、空気清浄機、送風機を配置して空気を循環させました。また、入場者名簿を作り座席の位置を記録しました。このように安心して来場していただけるよう感染予防対策には十分配慮しました。

(ア) 音声解説付きDVD映画体験上映会

「映像のまち・かわさき」らしいイベントとして、音声解説付きDVD映画体験上映会を毎月1回、予定していましたが、映画会は平均30名、最大50名近い来場者があり、多くの方が楽しみにしています。今年度は感染予防対策として、週末の平日と土曜日の2日間同じ映画を上映し、各回定員20名、予約制にして、当日参加者の座った位置を記録するようにしました。実施できたのは感



〔音声解説付きDVD映画体験上映会〕

染者数が落ち着いた、9月～12月、3月のみ合計5回（延べ10日間）、それ以外は中止（合計7回、延べ14日間）いたしました。

(イ) 歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ）

国立国会図書館の音源コレクションを紹介するイベントとして年6回奇数月に歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」を予定しておりましたが、7月、11月のみの開催となりました。古関裕而を2回に分けて開催。NHK テレビ小説「エール」の影響もあり、参加者は熱心に聞きっていました。



[れきおんクラブ]

(ウ) ヨガ教室

いつまでも健康でありたいと誰もが願うことですが、視覚障害者の多くは気軽に運動できる機会が限られているのが現状です。ヨガはマットを使って自分のペースで行うことができる、比較的取り組みやすい運動で、とても人気のあるプログラムです。

ヨガの講師には、これまで視覚障害者にヨガを普及してきた「一般社団法人チャレンジド・ヨガ」の川崎エリア担当の方をお願いしています。安全第一を心掛け、まずは仰向けで呼吸の確認から座位で体をほぐし、毎回のテーマに沿ったポーズを分かりやすい言葉でゆっくりと、必要に応じて補助員が少しお手伝いをしながら進めていきます。

例年、会場いっぱいヨガマットを敷き、最大20名まで受講していましたが、新型コロナウイルス感染予防を考えると、それはできません。対面で参加できる定員を8名にしましたので、Zoomを使ったオンラインヨガも併せて行うことにしました。センターでは、動画用のカメラとインストラクター用のハンドセットマイク、受信機、Zoomの有料アカウントを用意しました。ただ、視覚障害者がZoomでヨガ教室に参加するのはハードルが高く、Zoomを使用するのは初めての方も多いため、ご希望の方にはこちらから自宅に出向き、接続の確認、機器の位置と立ち位置の関係、操作の方法などを指導し、事前テストを行った上で本番に臨んでもらいました。また、訓練担当者にも指導の応援をお願いしました。このようにしてオンラインヨガにトライして経験された方は、継続して参加するようになり、当初3名だった参加者が、多い月では7名の参加がありました。このオンラインヨガのおかげで、ヨガ教室を完全に中止したのは、4月～6月の3か月のみでした。対面で行うヨガは年間5回、21名、オンラインヨガは8回、延べ40名の方に参加していただきました。

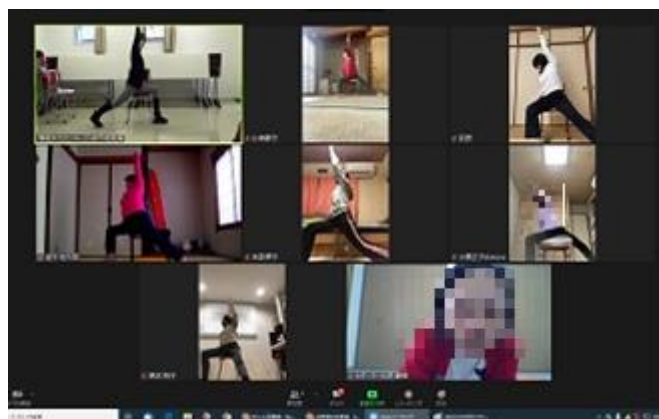
(事業計画は「レベルアップクラス」という一般クラスより上級者向けの指導を行う予定でしたが、対面とオンライン開催の両方を行いましたので、実施いたしませんでした。)



[ヨガ教室 対面での参加者]



[ヨガ教室 カメラ撮影・Zoom 管理]



[ヨガ教室 オンライン参加者]

(エ) 読書会

読書会是一个的作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。年2回行われ、盲人図書館時代から続く歴史ある行事となっています。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、2回とも中止いたしました。

(オ) かわさき春と冬のコンサート

当センターでは、文化活動の一環として春と冬の年2回、ふれあいプラザかわさきの2階ホールをお借りして、コンサートを開催しています。毎回百名近くの来場者がありますが、残念ながらコロナ禍のため、2回とも開催することはできませんでした。

トピックス

<視覚障害者のプロレス観戦>

7月初旬、鹿島田駅近くにある菊地眼科の菊地院長から電話あり、「プロレスの協賛をしているので、8月に開催されるプロレスイベントに視覚障害者を招待したい。」というお話がありました。ただ、視覚障害者には試合の様子がわかりませんので、「試合の様子を伝える音声ガイドを付けてほしい。」と、ガイドを付けてくれる団体を紹介しお願いしたところ、菊地先生が直接交渉してくださり、音声ガイド付きのプロレス公演が実現しました。8月6日菊地院長がプロレスラー大原^{はじめ}甫氏とセンターにご挨拶に見えました。センターは広報に協力し参加者を募集した結果、センターへの申込者29名と、他団体への申込者20名、併せて約50名が無料招待されました。(8月30日：カルッツ川崎)

<当日の様子>

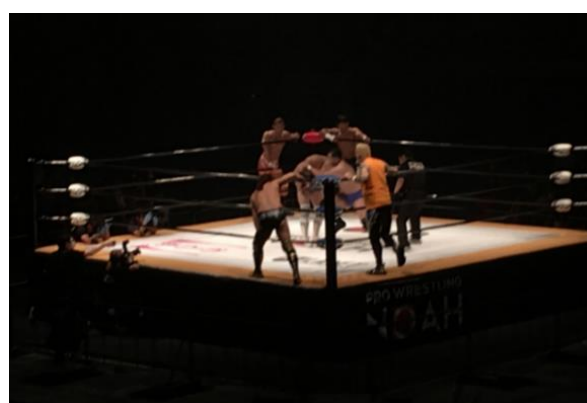
席はホーム側の2階席の一部エリアを、視覚障害者専用エリアとして用意してくださいました。当事者一人一人に小型FMラジオを事前に渡し、解説者の声が聴けるようにしておきます。当事者はレスラーの装い、プロフィール、動き、技などの説明をラジオを通して聞きながら、選手のぶつかる音、マットにたたきつけられる音の迫力を感じながら、プロレスの試合を楽しむことができました。



[センターに来所された大原 甫氏]



[会場で観戦する視覚障害者の方々]



(7) 防災・減災

① 新型コロナウイルス感染予防対策について

- 神奈川県感染防止対策取組書・LINE コロナお知らせシステムに参加し、受付、用具展示ルームの前に掲示しました。
- 来所者は、受付で、体温、体調をチェックし、氏名、連絡先を記入後に入室してもらい、万が一感染者が出た際には、すぐに連絡できるようにしました。
- 除菌担当エリアを3グループに分け、毎朝朝礼後に実施するようにしました。また、部屋を使用した際には、使用した職員が使用後に除菌を行うようにしました。
- ヨガ教室、音声ガイド付きDVD映画体験上映会のような人が集まるイベントについても、受付時に体温測定、体調チェックを行い、参加者名簿に体温、体調を記載しました。上映中は、出入り口、窓を開け、大型空気清浄機2台、送風機3台を設置し、空気を循環させました。
- 神田京子講演会では、ふれあいプラザかわさき2階のホールに、65名もの人が参加しました。会場内の席の間隔をあげ、空気の循環に配慮し、合間のトイレ休憩はエリアごとに規制して行ってもらい、終演時には、退出時に密にならないように順番に退席するなどの配慮をしました。
-



[LINE コロナお知らせシステム]

② 緊急事態宣言が発令された際の勤務体制について

職員を2つのグループに分け、半数がセンター勤務、半数が在宅勤務を行う交替勤務を行いました。さらに、センター勤務者を2つのグループに分け、交互に朝晩一時間の時短勤務を行いました。これは職員の感染リスク低減と、万が一感染者がでて、他のグループがセンターを運営できるようにするためです。

③ 緊急連絡網の整備

職員、パートに緊急時にすぐに情報伝達できるよう、個人の携帯電話番号、メールアドレスを更新し、一斉にメールを送信し、受信可能な状態であることを確認しました。

3 利用状況

(1) 閲覧・貸出

	2020 年度	2019 年度
① 利用登録者数	482 名	470 名
(新規登録者数)	22 名	31 名
(点字使用者数)	125 名	124 名
② 利用登録団体	293 施設	290 施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,289 タイトル	3,157 タイトル
(冊数)	11,873 冊	11,470 冊
蔵書数の変化 (新収書)	141 タイトル	121 タイトル
	340 冊	354 冊
貸出数	339 タイトル	329 タイトル
	1,153 冊	1,050 冊
(内 他館借受)	102 タイトル	69 タイトル
	312 冊	150 冊
(雑誌)	249 タイトル	295 タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	27 タイトル	7 タイトル
④ 音訳図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	6,185 タイトル	5,932 タイトル
(枚数)	6,218 枚	5,965 枚
蔵書数の変化 (新収書)	388 タイトル	337 タイトル
	388 枚	337 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	17 タイトル	25 タイトル
	112 巻	132 巻
(イ) CD図書	10,427 タイトル	9,466 タイトル
(内 他館借受)	5,122 タイトル	5,927 タイトル
(ウ) カセットテープ雑誌	0 タイトル	8 タイトル
(エ) CD雑誌	3,837 タイトル	4,350 タイトル

	2020 年度	2019 年度
デージー図書コンテンツダウンロード提供 メモリーメディア	3,859 タイトル	3,244 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	102 件	94 件
(2) 資料製作		
① 点字図書の製作数		
(ア) 製作数	49 タイトル 180 冊	47 タイトル 177 冊
内訳		
委託製作数	19 タイトル 70 冊	19 タイトル 81 冊
委託外製作数	30 タイトル 110 冊	28 タイトル 96 冊
(イ) 寄贈	30 タイトル 82 冊	21 タイトル 64 冊
(ウ) プライベートサービス	18 タイトル	32 タイトル
② 音訳図書の製作数		
(ア) 製作数	101 タイトル	89 タイトル
内訳		
委託製作数	82 タイトル	58 タイトル
委託外製作数	19 タイトル	31 タイトル
(イ) デイジー編集	101 タイトル	89 タイトル
(ウ) 寄贈	20 タイトル	19 タイトル
(エ) プライベートサービス	17 タイトル	11 タイトル
内訳		
音訳	8 タイトル	2 タイトル
テキストデイジー	6 タイトル	4 タイトル
プレーンテキスト	1 タイトル	0 タイトル
PDF	0 タイトル	4 タイトル
テープのデイジー化	2 タイトル	1 タイトル
③ テキストデイジー図書の製作数	3 タイトル	5 タイトル

		2020 年度		2019 年度	
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数					
製作数		25 タイトル		34 タイトル	
内訳					
	センター内製作数	8 タイトル		10 タイトル	
	委託製作数	17 タイトル		24 タイトル	
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成					
① 点訳ボランティアスキルアップ研修会					
	開催回数	3 回		2 回	
	受講者数	46 名		66 名	
		(会場 27 名+オンライン 19 名)			
② 音訳ボランティアスキルアップ研修会					
	開催回数	1 回		3 回	
	受講者数	26 名		16 名	
		(会場 14 名+オンライン 12 名)			
③ 音訳ボランティア養成講座 事前講習(オンライン)					
	開催回数	5 回		- 回	
	延べ受講者数	48 名		- 名	
	実受講者数	9 名		- 名	
④ 音訳ボランティア養成講座					
	指導回数	3 回		- 回	
	延べ受講者数	27 名		- 名	
	実受講者数	9 名		- 名	
(4) 訓練・相談事業の取り組み					
① 訓練					
	訓練者実数	31 名	256 回	42 名	403 回
	(新規訓練者数)	9 名		12 名	

内訳（複数提供あり）	2020年度		2019年度	
	名	回	名	回
歩行訓練	8名	88回	18名	214回
パソコン訓練	10名	73回	7名	76回
ICT訓練	2名	2回	3名	37回
点字訓練	0名	0回	2名	29回
生活訓練(日常・調理)	7名	66回	5名	12回
その他	4名	27回	7名	35回
② 相談	124名	411回	159名	347回
③ 用具の展示と販売紹介	展示点数	345点	281点	
	販売紹介点数	1,087点	1,256点	

(5) 啓発・普及

① 事業報告会の開催

訓練事業説明会（7月）…………… 中止

② 授業・講座への講師派遣

10月 苅宿小学校 「点字、目の見えない見えにくい人の日常生活、盲導犬について」 参加者数 約120名

11月 下川原小学校 「点字、目の見えない見えにくい人の日常生活、盲導犬について」 参加者数 約50名

12月 木月小学校 「点字、目の見えない見えにくい人の日常生活、盲導犬について」 参加者数 約50名

小田小学校 「点字、目の見えない見えにくい人の日常生活、盲導犬について」 参加者数 約100名

3月 宮前小学校 「点字、目の見えない見えにくい人の日常生活、盲導犬について」 参加者数 約120名

県立川崎図書館 「視覚障害の見え方、便利なグッズの紹介、視覚障害者の生活について」 参加者数 約40名

③ 訓練生交流会

●屋外交流会（10月）…………… 中止

●Zoomを使用した利用者交流会の開催 開催数3回 延べ参加者27名

●YouTubeを活用したサロン（11月） 開催数1回 参加者数4名

④ イベントの開催

●読書会（6月、2月）			中止
●春、冬のコンサート（5月、2月）			中止
●センターまつり（12月）			中止
●神田京子講談会（12月）		来場者数		65名
●音声ガイド付きDVD映画体験上映会毎月開催				
	開催数 5回	延べ来場者数		63名
	(中止7回)			
●音声ガイド付きDVD映画体験上映会平日開催				
	開催数 5回	延べ来場者数		51名
	(中止7回)			
●歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」				
	開催数 2回	延べ来場者数		13名
	(中止4回)			
●チャレンジド・ヨガ 通常クラス	開催数 13回	延べ来場者数		61名
	(中止11回)			
内訳	対面	開催数 5回	延べ来場者数	21名
	オンライン	開催数 8回	延べ参加者数	40名

* 定員数を半数以下にするため、ヨガ教室レベルアップクラスは中止し、通常クラスのみとしました。